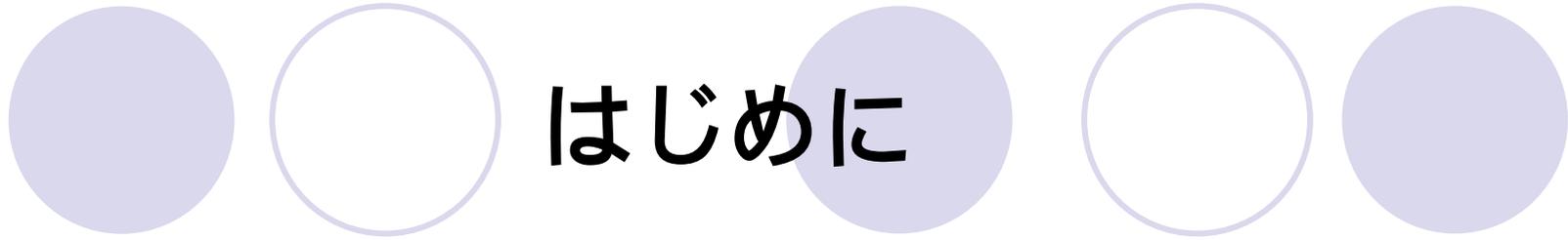




青春のグラフィティコンサート

2005

中部日本放送株式会社



「フォークソング」って、単なる、音楽のジャンルなのでしょうか？
フォークソングは、何か他の役割も担い、生まれて来たような気がします。
それは、現在(いま)でも変わらない気がします。

企画意図

戦争が終わって僕は生まれた
戦争を知らずに僕は育った
大人になって、歩き始める
平和の歌を、口ずさみながら
僕らの名前を覚えて欲しい
戦争を知らない子供たちさ

(「戦争を知らない子供たち」作詞/北山 修 作曲/杉田 二郎 より)

この曲が、世に出て、社会的現象また当時の論議の対象となったのは1970年(昭和45年)、大阪で「万博」が開催された、その年でした。

この曲も、当時流行の「フォークソング」が、万博会場で開催された、“集会”で発表されたものでした。

あれから約30年

・・・同じ作詞者のこんな詞を見つけました。

ママはフォークシンガーだった 20年前は唄ってた。

歌わずにいられない、ただ、それだけだった

でも、いつの間にか やめていたと言う。

ママの熱い声が、街中に響く時

若者達は、胸ときめかせた

(中略)

2人はフォークシンガーだった 20年前は唄ってた。

今はフォークソングも聴こえてこない

時代も違うし、退屈でもあるし、

僕は、ロックンロールが、好きなだけけれど

たまには、聴きたい 胸に沁みる歌

ねえパパ もう一度ギターを弾いて

ねえママ もう一度唄っておくれ

僕は今でも覚えているよ

ママと唄った あの子守唄なら

(「ママはフォークシンガーだった」作詞/北山 修 作曲/長谷川きよし)

当時、フォークソングには、力強さを感じました。

メッセージも感じました。

あれから、時は経ちました。

音楽も、様変わりをしました。

今、当時のフォークソングを聴いたとしたなら・・・

懐かしさよりも、色褪せない曲、情景など、

あらゆることに、驚きを感じます。

もし、2005年の愛知万博(愛・地球博)で

「戦争を知らない子供たち」が生まれた時ように

まるでタイムトリップしたかのように

フォークソング“集会”を開催したら・・・

きっと、世代を越え、国境も越え、時間までも越えて

なお色褪せないメッセージが伝えられることでしょう。





企画概要

【タイトル】 「青春のグラフィティコンサート2005」

【開催日時】 2005年 5月 29日(日) 12時開場 13時開演(予定)

【開催場所】 EXPO DOME (定員3,000名)

【主催】 中部日本放送株式会社 中日新聞社

【共催】 財団法人 2005年日本国際博覧会協会

【出演予定】 【詳細】に記述しております

【参加対象】 事前応募 及び 博覧会入場者を対象とした当日入場

【情報解禁】 4月18日(月) 午前11時

【放送対応】 テレビ 6月18日(土)14時00分～15時54分(予定)変更可能性あり
ラジオ 6月27日(月)19時00分～20時20分(予定)

詳細

【出演予定】



伊勢 正三
イルカ



海援隊



杉田 二郎



谷村 新司

ばんばひろふみ



堀内 孝雄



南 こうせつ

森山 良子

他



Sing Out '60s ~ '80s

「シングアウト」つまり大合唱がもたらすもの…
不思議なもので、当時の曲が流れる、また演奏されると
誰彼ともなく、歌いはじめるのです。
歌い易いなどという次元では無く「そういうもの」なのです

客席側で歌う人達は、思い思いの”背景”を描きながら口ずさむのです

時代や世代を超え、尚も色褪せない「フォークソング」の数々
色褪せない理由は、時代を映し出せる”力”があるからこそ
時間の流れに沿った”組み合わせ”でステージを構成します。

「シングアウト」は、タイムマシンの様に、当時へ連れていってくれるでしょう

Seldom seen

その表題の通り、「当時、見たくても見られなかった」組み合わせを
2度目の万博で「実現」しようというものです。
例えば、伊勢正三とイルカの共演での「なごり雪」
見ていたようで、見たことが無い。…35年の時間の業です。

細かな説明は要らないと思います。音楽が与えるものは、文字にするよりも「確か」であることは身を以て体験されていることと思います。また、今回の出演者の方々は、この”歴史”を歌と共に語るに相応しいの方々であるとも思います。カレッジフォーク時代からの【先駆者】森山良子をはじめ、【歌詞を日本語で…つまり”自分の思い”を曲にのせた先駆者】小室等、前回の統一テーマ曲 戦争を知らない子供たちの作曲者、杉田二郎、フォークの転換期 いちご白書をもう一度を歌った、ばんばひろふみ、その他一世を風靡し、記憶にも新しいアリスやかぐや姫の方々等…2000年から開催してきた、同名の”日本最大のフリーコンサート”(名古屋市・久屋広場)での積み重ねの結果です。



青春のグラフィティコンサート2005
もう一つの「フォーク」へ
~ 2nd Generation ~

中部日本放送株式会社

1970年、「大阪万博」におけるイベントとして「全日本アマチュアフォークソングフェスティバル」が開催されました。それから35年を経ようとしている2005年、CBCは「2005年日本国際博覧会」での「青春のグラフィティ2005」を企画いたしました。

'70にエポックメイクされた「日本のフォークソング」を、35年という歳月を経ての集大成ともいえるビッグイベント....

団塊の世代を軸にリアルタイムで同時代を生き抜いてきた人々が奇しくも同じ「万博」というステージに集う感動は想像を超えるものがあると思われま

す。こうした感動を一部世代の「ノスタルジア」的な出来事で終わらせること無く、次世代へも継承できないか、そして2005年の「愛・地球博」から新たなる「エポックメイク」となるものを創り上げたいと考えました。

「ポスト万博」が問われる中、CBCは新たなる提案として2005年以降にも継承される新イベントを「青春のグラフィティ2005」に合わせて開催し、「万博」から「万博」へ、そして「新しい歴史」をスタートさせる

もう一つの「フォーク」へ
~ 2nd Generation ~ (仮)

を企画いたしました。



企画概要

【タイトル】 青春のグラフィティコンサート2005
もう一つの「フォーク」へ ~ 2nd Generation ~ (仮)

【開催日時】 2005年 5月 28日(土) 12時開場 13時開演(予定)

【開催場所】 EXPO DOME (定員3,000名)

【主 催】 中部日本放送株式会社 中日新聞社

【共 催】 財団法人 2005年日本国際博覧会協会

【出演予定】 【詳細】に記述しております

【参加対象】 事前応募 及び 博覧会入場者を対象とした当日入場

【情報解禁】 4月18日(月) 午前11時

【放送対応】 テレビ 6月18日(土)14時00分~15時54分(予定)変更可能性あり
ラジオ 6月27日(月)19時00分~20時20分(予定)

詳細

【出演予定アーティスト】

諫山実生

河口恭吾

熊木杏里

kengo

千綿ヒデノリ

長谷川 都

平川地一丁目



MEETS '60s ~ '80s

音楽は、人と人を媒介してきました。時代の背景が変化しても”不変”の音楽と出会い、影響を受けた”次の世代の担い手”がいるはず。彼等が、どんなフォークに触発され、今の”自分”になったのか？「キッカケ」となった曲を歌って頂きます。

Now & then

今、戦争を知らない子供たちのような「テーマ曲」を作るとしたら…
どんなモチーフに、どんな【メッセージ】が込められるか？
形式にも囚われない、今の「フォークソング」とは、どのようなものになるのか？
“次の世代”が作る、更に次の世代に贈る「今の時代を映し出した曲」
…最高のメモリアルとなることでしょう

Seldom seen

世代を越えたミュージシャン同士のステージを企画するものです。
実際に”共演”するのも一つの手法ですが、次の世代で興味あるアーティストの紹介だけでも、十分に「出会い」に値することだと考えます。

